

生徒一人一人が生き生きと表現する  
合唱指導の工夫

—— イメージ作りを取り入れた合唱指導を通して ——

浦添市立浦西中学校教諭 知名 恵子

20-5

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の構想図	2
V	研究の内容	2
1	イメージ作りの工夫	2
(1)	基本的な考え方	2
(2)	聴くための手だて	3
(3)	イメージ作りの手だてと活動の流れ	4
(4)	グループ活動の手順	5
2	表現力を高めるための工夫	5
(1)	基礎的・基本的事項の理解	5
(2)	和声感の育成	5
(3)	読譜指導について	6
(4)	発表の場の設定	6
3	生徒の実態	6
4	各段階の評価について	7
V	授業実践	7
1	題材	7
2	指導目標	7
3	教材	7
4	評価の基準	7
5	指導計画	8
6	授業の展開	10
7	授業を終えて	12
VI	研究の評価	13
1	イメージと表現に関する調査より	13
2	相互評価より<発表で各グループの良いところを見つける>	17
3	自己評価より<合唱表現への意欲の推移>	18
4	生徒の感想	20
VII	研究の成果と課題	21
1	研究の成果	21
2	今後の課題	21
*	おわりに	21
*	参考文献・引用文献	21

# 生徒一人一人が生き生きと表現する合唱指導の工夫

— イメージ作りを取り入れた合唱指導を通して —

浦添市立浦西中学校 知名恵子

## 【要約】

本研究は、合唱活動において、生徒が自ら感じ、考え、豊かな表現ができるよう、歌唱表現の指導を工夫しようとするものである。

グループ活動に、楽曲のイメージを捉えふくらませ、表現の工夫をするイメージ作りの場を取り入れることにより、表現力を高め主体的に学習する生徒への変容を目指した。

その結果、自ら考えて活動する場面が増え、生徒の自由な発想や表現ができるようになり、楽しく生き生きと学習活動に取り組むようになった。

**キーワード** □合唱活動 □イメージ作り □表現の工夫 □グループ活動 □歌唱技能

## I テーマ設定の理由

生徒の周りには、マスメディアの著しい発達により、常に様々な音楽情報が流れ込んでくる状況がある。クラシックやポップス、ドラマの主題歌やテレビのコマーシャルに流れるメロディーに至るまで、幅広いジャンルの音楽が、好きな時に、好きな方法で楽しめるようになった。このような環境にある生徒たちの音楽的嗜好・価値観は多様化している。音楽がより身近になり、生徒たちの興味・関心が高くなっている一方、音楽的な能力が身につけていない状況も見受けられる。例えば、耳から覚えることに慣れていないためか、メロディーを覚えるのは早いですが、楽譜を見て歌うことは不十分で不得手である。好きなアーティストの曲を繰り返し聞き、模倣して歌うものまね的歌唱は上手だが、自らの表現には至っていない等。生涯にわたって、音楽を愛好する心を培っていくためには、自ら表現を工夫する態度や能力、音楽するための基礎的・基本的な能力の育成が必要である。

中学校音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うこと」が掲げられている。

表現の領域における歌唱指導では、「歌詞の内容や曲想を感じ取って、表現を工夫する。」（第1学

年）「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫すること」（第2・3学年）が示されている。生徒に音楽表現の豊かさや美しさを感じ取らせるために、教師が教え込むのではなく生徒自身が楽曲の良さを感じ取り、考え、表現の工夫ができるような指導が求められている。

これまでの自らの授業を振り返ってみると、一斉指導や、グループ活動等の学習形態の工夫を試みながらも、表現活動においては、教師の考え方や感じ方が中心になり、生徒が課題意識を持たない学習になりがちであった。そのため、生徒の工夫や発想が生かされない表現や楽曲の理解が不十分などの課題を生み出す結果になっていた。

「生き生きと表現する合唱活動」は、生徒が自ら感じ、考え表現できることだと考える。このような合唱活動を創り出すためには、なによりも音楽することは楽しいと生徒に感じさせることが大切である。自らの表現が出来たとき、合唱する楽しさや音楽する楽しさが味わえるであろう。

以上のような考えに基づき、「イメージ作りの工夫」「表現力を高める工夫」の手だてを行うことにより、自分たちの工夫や発想による表現ができ、意欲的・主体的な学習態度が育つのではないかと考え本テーマを設定した。

## II 研究の目標

自ら感じ、考えて表現する合唱活動をめざし、イメージを捉え、ふくらませ、伝えることができる表現についての指導を工夫する。

## III 研究の仮説

### 1 基本仮説

合唱における表現活動を活発に行う場を設定し、生徒一人一人の表現活動に適切な支援をし、表現意欲を高揚させることにより、自ら感じ考え表現する力を育成することができるであろう。

### 2 作業仮説

- (1) 楽曲のイメージを絵画や言語等で表現するイメージ作りの場を合唱活動に取り入れることにより、自分の思いやイメージを広げることができ、表現する意欲が高まるであろう。
- (2) 練り上げたイメージを発表する場の設定や歌唱表現の工夫を図ることにより、イメージ豊かに歌う意欲が高まり、「曲想を感じ取る・味わう」ということを体得できるであろう。その結果、基礎的・基本的事項や読譜についての学習の必要性を感じ取ることができ、表現する力が育つであろう。

## IV 研究の構想図

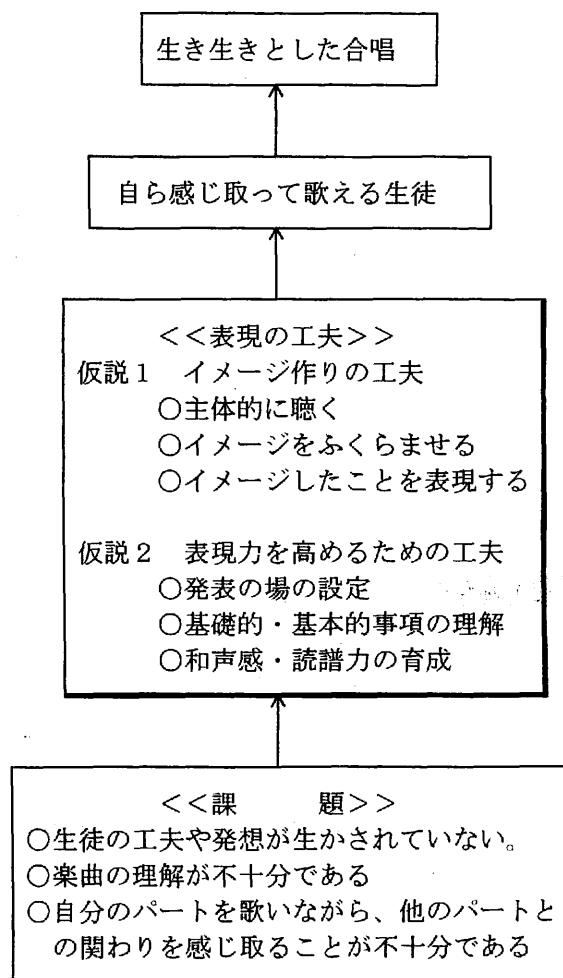


図1 研究構想図

## V 研究の内容

### 1 イメージ作りの工夫

#### (1) 基本的な考え方

音はなにもしなくても自然に耳に入ってくる。音楽もただ漠然と聞いている状態から、意識を集中させて聴き入る状態までさまざまである。BGMのような「ながら聞き」ではなく、楽曲からイメージをふくらませるために、意識的に「聴く」という活動の手だての工夫が必要である。つまり、ただ何となく聴いている状態から、積極的に「聴く」ことへ変える手だてである。そのことにより、「楽曲のイメージをふくらませる」ことができ、さらに「自分の思いを伝える表現」へと、導くことができるであろう。

(2) 聴くための手だて

曲から受ける印象は、各自それぞれに違いがある。一人一人が主体的に「聴き」、イメージすることができるよう「意識して聴く」ための三つのパターンを試みた。最初に、ピアノによるメロディー演奏を聴く。次に、ピアノ伴奏を聴く。さらに、歌詞を朗読し、それぞれから感じたことを書き出していく方法である。音楽が苦手な生徒でも、イメージを捉えることに抵抗なく取り組めるであろう。

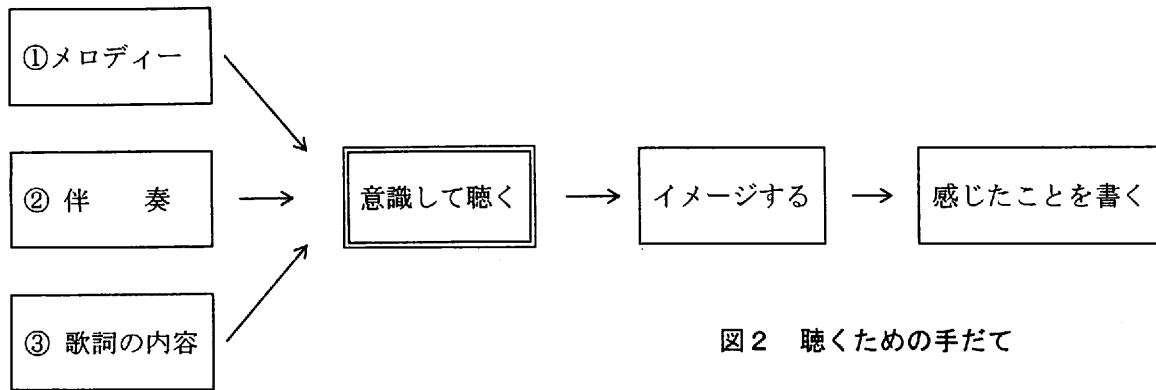


図2 聴くための手だて

<ワークシートより>

①メロディーから受けた印象

- ・きれい・・・13名
- ・やさしい感じ・・・9名
- ・楽しい感じ・・・2名
- ・明るい感じ・・・2名
- ・落ち着いた感じ
- ・静かな感じ
- ・今から飛ぶぞ、という感じ

②伴奏から受けた印象

- ・だんだん盛り上がってくる感じ・・・9名
- ・楽しい感じ・・・6名
- ・だんだん激しくなっていく感じ・・・4名
- ・いろいろ変化している・・・4名
- ・優しい感じ・・・5名
- ・明るい・・・2名
- ・軽やか ・たくましい ・少年と青空

③歌詞の内容から受けた印象

- ・今という時はすべて君のものという感じ
- ・少年は夢と希望があつて試練を乗り越えた
- ・少年が気持ちよく青い空を飛んでいる感じ
- ・軽やかで楽しい気分
- ・いろんなことに挑戦し希望を持つ様子
- ・未来は無限大 ・青空は君のもの
- ・自由な感じ ・はばたく様子

- ・励ます感じ ・青春の輝き
- ・少年を白い鳥に例え世界に飛び出す感じ
- ・自分の道を自由に歩いていく
- ・少年の日を自分だけのものにした感じ

<分析と考察>

- メロディーからイメージすることは、予想以上に難しかったようで、無回答の生徒もいた。
- 伴奏の変化については、大多数の生徒が気づいていて、その変化から曲の雰囲気を感じ取っている。しかし、イメージをふくらませる段階には至っていない。
- 歌詞の内容から受けた印象は、具体的な場面や情景が書けていて、イメージをふくらませることがメロディーや伴奏より容易であったことがわかる。

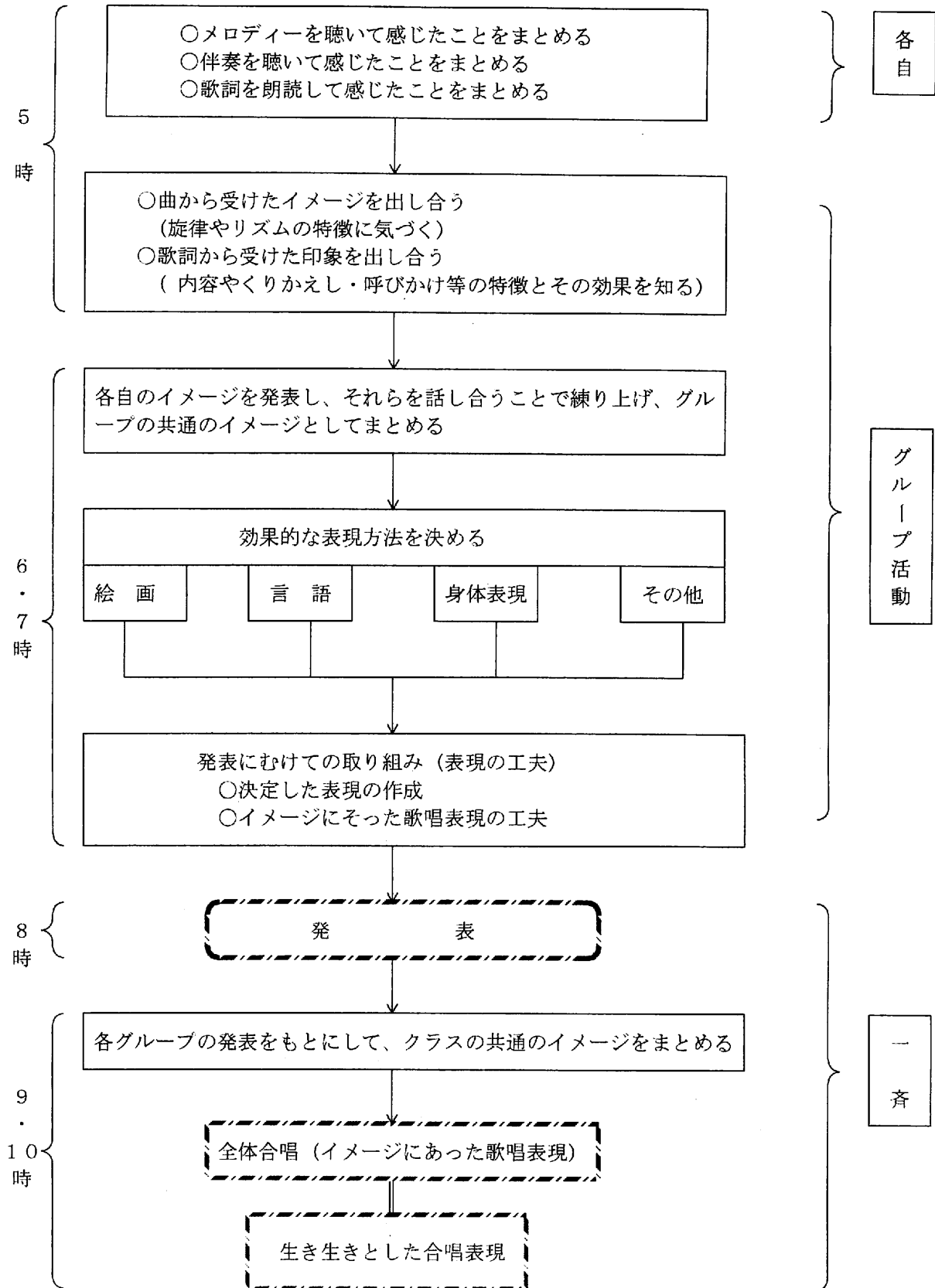
この結果から、楽曲のイメージは歌詞の内容から捉え、ふくらませていると言える。生徒が曲の味わいと歌詞の内容とのつながりを理解することができ、また、歌詞から受ける印象とメロディーとの関連にも気づいたと考える。さらに、歌詞の内容を十分に読み取ることが、歌詞の雰囲気を感じ取ることであり、そのことが「表現の工夫」になることを理解させたい。

(3) イメージづくりの手だてと活動の流れ

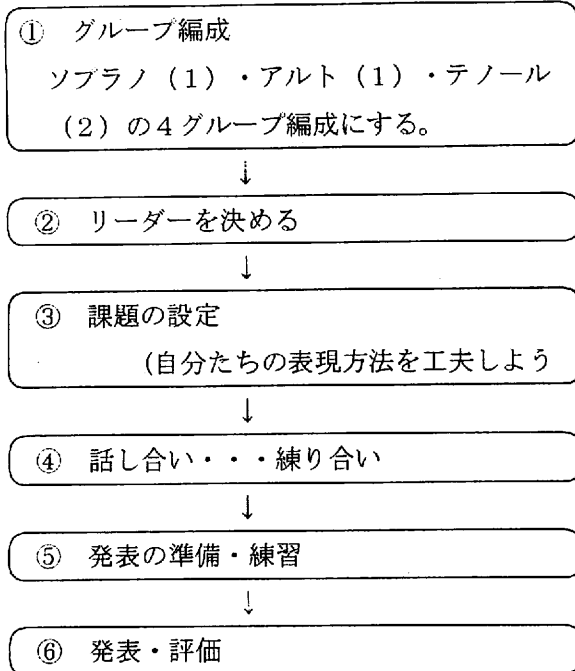
(第三次～第四次)

楽曲のイメージをふくらませ表現しよう

主な学習形態



#### (4) グループ活動の手順



#### <<<グループ活動の効果>>>

- 互いの良さや感じ方、考え方の違いを認め合う中で、表現力や創造力を豊かにすることができる
- 他者との関わりの中から、自分らしさや個性を育む。
- 他者の意見を聞くことにより、独創的な発想が生まれる。
- 協調性の育成

## 2 表現力を高めるための工夫

### (1) 基礎的・基本的事項の理解

楽譜に書かれている発想記号や強弱記号などの音楽の要素は、記号によって暗示されている作曲家や編曲者の意図を読み取る手がかりとして機能するものである。しかし、音楽学習において、それらを知識として覚えることに重点を置いて指導している場面が見受けられる。もともと作曲者のメッセージは、作られた音そのものにあるのであって、記号等はそれを補強するための一手段であることを認識させ、音楽の中でどのような役割を果たしているか等を体験的に理解させ、体得させる必要がある。

### (2) 和声感の育成について

合唱する喜びは、豊かな響きを味わうことである。美しく豊かな響きのある合唱は、和声の美しさにあり、その和声の美しさの根源は正しい音程にある。

高音部、低音部といった単に旋律の積み上げの学習にとどまっていると、縦に響く和音感覚への耳がなかなか育たない。和声の乱れる原因は、ほとんどが他声部との響きの中で起きている。そのことを考えると、他の声部を意識しその音に耳を傾けること、そして、聴きながら自分のパートが正しく歌えるようにするための練習が重要となる。同時に鳴る音に耳をすまし、和音に集中する取り組みを絶えず繰り返し練習することにより聴感覚は育っていく。聴感覚が育ってくると、和声感が育成されると考える。

#### ① 「少年の日はいま」の和音進行を用いた和声指導

教材の和音進行を毎時間の導入で学習することにより、和音の響きを感じ取ることができ、合唱を作り上げていくうえでより効果的な指導ができると考える。「少年の日はいま」の冒頭の8小節と、最後の8小節の和音進行を用いてハーモニートレーニングを行う。



#### ② << 学習方法の流れ >>

- ア 階名唱で各パート音取りをする
- イ 母音で流れを感じて歌う
- ウ 各パートを合わせる
- エ ハーモニーを感じながら歌う
- オ 美しい響きの声を目指して歌う
- カ リズムを変えて歌ったり、フェルマータをかけてその和音の響きを体得する

(2) 読譜指導について

読譜指導は、楽譜を読み、リズム、音程をつけながら音楽する技能を習得していく過程、楽譜や鍵盤などを通して、音階や調性の機能や諸記号を知るなどの理解の過程とに分けられる。

これらの指導は、合唱教材においては、合唱を作り上げていく過程で行われているのがほとんどである。つまり、階名唱により、メロディーを把握し、その後、歌詞唱へと進め合わせていく方法をとることが一般的である。

また、曲想をより感じ取るためには、諸記号の理解も重要である。なんのために楽譜を読まなければならないか、という目的をはっきりさせ、生徒に読譜の大切さを認識させることが必要である。

① リズム指導

- 楽譜を読み取る能力
  - ・ 音符の読み取り
  - ・ 音の高低の読み取り
- 教材で使われているリズムパターンを示し、読み取り練習を行う。

② 唱法について

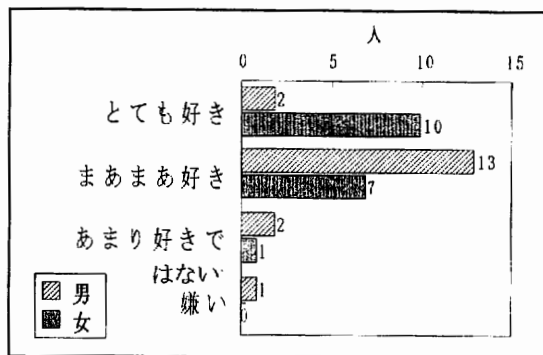
基本的に、移動ド唱法で歌う。自分のパートの階名が読めるようにする。男声パートの階名唱は、特に指導を要するため、パート練習の場を効果的に活用する。

(4) 発表の場の設定

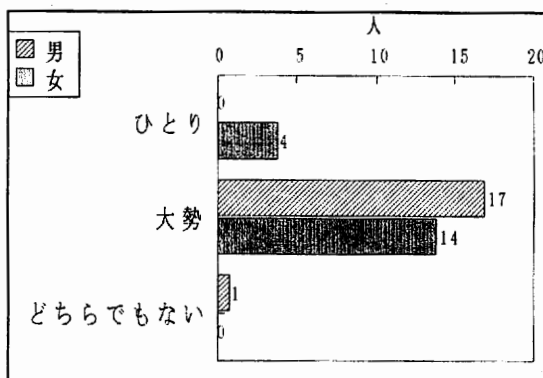
- 表現の場を体験する。
- 互いの良さを認め合い、さらに高め合う場とする。
- 発表の仕方を学び、協力して発表する態度を養う。
- 他者評価・自己評価を通して自らの考えを深める。
- 聴く態度を学び、集団生活のマナーを身につける。
- イメージを共有する場とする。

3 生徒の実態 <アンケートの結果より>

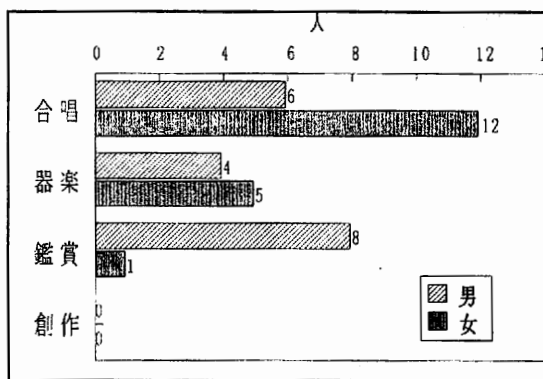
(1) 歌うことは好きですか。



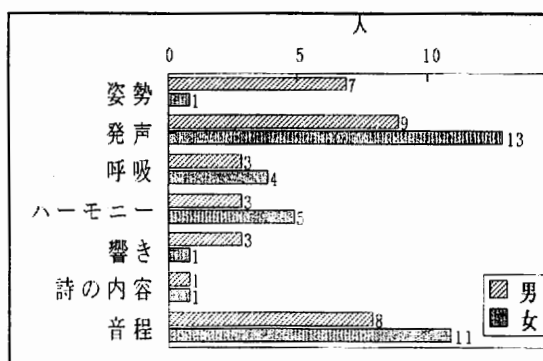
(2) ひとりで歌うことと、大勢で歌うのではどちらが好きですか



(3) 音楽の学習の中で、一番好きなことはどれですか

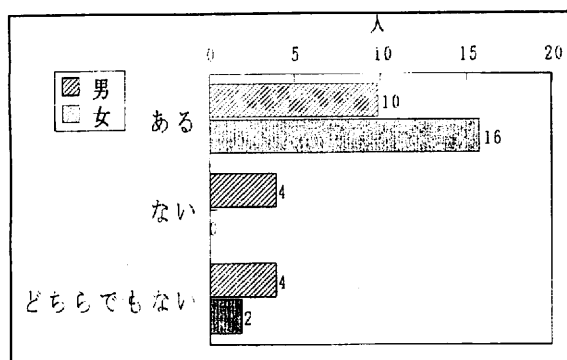


(4) 合唱するとき、特に気をつけていることは何ですか





(5) 気持ちよく歌えたことがありますか



<アンケートの分析と考察>

- 「歌うことが好き」「合唱が好き」という結果から、歌唱についての意欲や関心の高さを知ることができた。また、「好き」と答えた理由では、「みんなで一緒に歌うことが楽しいから」が特に多かった。これまでの合唱経験が充実していたことをうかがい知ることができる。
- 合唱するときには気をつけていることでは、「発声・音程・姿勢」が大半を占めており、「歌詞の内容」に関しては、男女それぞれ1名が回答している。このことから、日頃の教師の声かけや指導が、技能面に偏っていたことがうかがえる。十分反省しなければならない点である。
- 「気持ちよく歌えたことがあるか」については、ほとんどの生徒が「ある」と回答している。その理由として、「みんなできちんと歌えたとき」「一生懸命歌ったとき」「きれいな声が出せたとき」等となっている。
- これらの結果から、豊かな響き・美しいハーモニーに関する生徒の意識の低さが感じられる。感じる心や耳をもっと大切にされた指導を心がけたい。

4 各段階の評価について

生徒一人一人の良さや可能性を生かすためと、自らの指導方法の改善のため、各段階での評価のあり方を工夫する

- (1) 毎時間の反省（授業のめあてをおさえて）  
形成的評価・・・自己評価
- (2) 発表の評価（各グループの良さを見つける）  
総括的評価・・・相互評価

VI 授業実践

1 題材 「イメージをふくらませて表現しよう」

2 指導目標

- (1) 歌詞の内容を理解し、豊かな曲想を感じることができる。
- (2) 混声三部合唱に親しみ、意欲的・主体的に学習する態度を育てる。
- (3) 自ら描いた曲のイメージを、効果的な方法で、発表できる。
- (4) 豊かな響きで歌い合わせる喜びを味わわせる。

3 教材 「少年の日は いま」

作詞 しまなぎさ 作曲 鈴木行一  
混声三部合唱

へ長調 Moderato

4 評価の基準

- (1) 音楽への関心・意欲・態度  
音楽することへ関心を示し、意欲的・主体的に学習活動に取り組もうとしている。
- (2) 音楽的な感受や表現の工夫  
音楽の諸要素を理解して、イメージにあった表現の工夫をしている。
- (3) 表現の技能  
拍の流れにのって、音程やリズムを正しく歌うことができる。  
豊かな響きを感じて歌うことができる。
- (4) 鑑賞の能力  
いろいろと工夫された表現を感じ取って聴くことができる。

## 5 指導計画

- 第一次 「少年の日はいま」の曲の雰囲気味わい、おおまかなイメージをつかむ。  
 第二次 音程や響きのある声を工夫して、混声三部合唱ができるようにする。  
 第三次 曲のイメージをふくらませ、表現の工夫をする。  
 第四次 工夫した表現を生かし、生き生きと混声三部合唱をする。

次	時	ね ら い	おもな学習活動	指導の重点			評価の観点
				表現力	和声感	読譜力	
第一	1	・範唱テープを聴き曲のおおまかなイメージをつかむ	・範唱テープを聴く ・パート別に音取りをする ・階名唱をする ・歌詞唱をする	○			・集中して聴く ○ ・パート練習に意欲的に取り組む ○ ・情景をイメージしながら聴く
第二	2	・拍子やリズムの流れを感じ取り音程に気をつけて歌うことができる	・パート別に音取りをする ・歌詞を覚えて歌う	○		○	・パート練習に意欲的に取り組む ・音程が取れる
	3	・他の声部を聴き自分のパートをしっかりと歌うことができる	・パート練習をする ・各パートを合わせ旋律の関わりを生かして歌う S+A, S+T, A+T S+A+T		○	○	・積極的にパート練習をする ・他のパートを聴きながら自分のパートが正確に歌える
	4	・響きのある声を工夫し各声部の旋律のかかわりを生かして混声三部合唱をすることができる	・ハーモニーを感じながら混声三部合唱をする	○	○		・進んで学習する ・明るい響きの声に気をつけて合唱する ・和声感を感じる
第三	5	・イメージをふくらませ具体的に表現していくことが理解できる	・歌詞の内容を読み取る ・イメージをふくらませる ・表現することについて話し合う	○ ○ ○		○	・自分のパートがしっかり歌える ・曲のイメージを捉え膨らませることができる

次	時	ね ら い	おもな学習活動	指導の重点			評価の観点
				表現力	和声感	読譜力	
第 三 次	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループに分かれてそれぞれの表現の工夫をする</li> <li>課題に沿った話し合いができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;イメージ作りの工夫&gt;</li> <li>曲から受けたイメージについて話し合う</li> <li>歌詞から受けたイメージについて話し合う</li> <li>グループでまとめたイメージを効果的に表現する方法を話し合う</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの話し合いに積極的に参加する</li> <li>イメージを生かした表現の工夫をする</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループでまとめたイメージを、それぞれの表現方法で発表するための準備をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ別に発表の準備を進める (例) 絵画・言語・その他</li> <li>イメージに沿った歌い方を工夫する</li> </ul>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動に進んで参加する</li> <li>グループでまとめた表現の工夫を生かす</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫を生かして各グループ発表をする</li> <li>表現の工夫を生かして歌う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;各グループの発表&gt;</li> <li>発表の仕方を工夫し、表現したいことがうまく伝わるようにする</li> <li>良いところや直した方がいいところに気づく</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで発表する</li> <li>表現の工夫を生かして歌う</li> <li>協力して発表できたか</li> </ul>
第 四 次	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した表現を生かし、合唱ができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの表現の工夫をクラスの合唱表現として、ひとつにまめる</li> </ul>	○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した表現をより高めようとする</li> <li>曲想を生かして歌う</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した表現を生かし、生き生きと合唱ができるようにする</li> <li>混声三部合唱の美しいハーモニーを味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美しいハーモニーを感じ取り楽しく生き生きと合唱する</li> <li>録音テープを聴いて学習のまとめをする</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き生きと表現する</li> <li>ハーモニーを味わう</li> <li>曲想を生かして歌う</li> </ul>

## 6 授業の展開

(1) 公開授業 (8 / 10)

日時 平成10年12月21日 (月)

対象 浦添市立浦西中学校 1年5組

男子18名・女子18名 計36名

① 指導目標

「イメージしたことが伝わるような表現ができる」

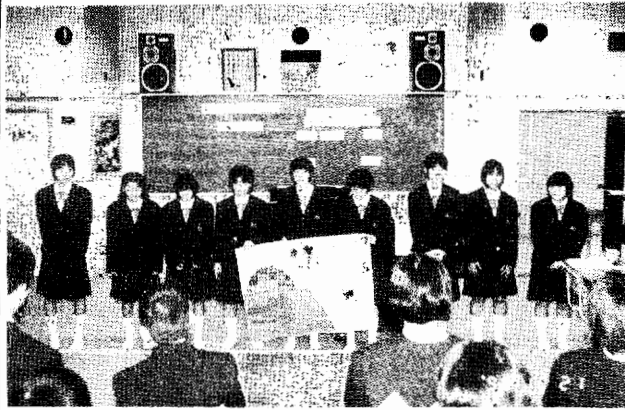
② 展開

	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点	備考
導 入	1. 発声練習 既習曲を歌う	校歌斉唱 「君をのせて」を歌う	伸び伸びと歌う		ピアノの周 りで歌う
	和声のフェード	「少年の日はいま」の 和音進行を感じて歌う	音程・ハーモニーを意識し て歌う		
	2. 本時の目 標の確認	本時の目標を知る	カードに書いて掲示 し生徒の意識を高め る		カード
展 開	3. 「少年の 日はいま」を 合唱する	混声三部合唱をする	他の声部の響きを感じ て、自分のパート がしっかり歌える		伴奏者
	4. 表現の工 夫	発表の準備をする	各グループの取り組 み	積極的に活動に参 加する	
	5. 発 表	各グループの発表 ・イメージの具体化 (絵・歌詞・紙芝居・ 絵とことば) ・工夫したことを生か して歌う ・感想や意見を発表す る	発表の仕方を工夫し 表現したいことがう まく伝わるようにす る  良いところを見つけ る	協力して発表でき たか  表現の工夫を生か して歌うことがで きたか	評価の用紙
ま と め	6. 学習のま とめ  次時の予告	自己評価をする  「少年の日はいま」を 合唱する	本時の目標を達成で きたかを確認する  曲想を生かして歌う		評価の用紙

③ 各グループの発表より

<<1グループ>>

私たち1グループは、「少年の日はいま」の歌を絵で表現しました。まず最初に、歌詞からイメージしたことを、各自がそれぞれ絵で表しました。それから、全員の書いた絵をもとにして1番の青空、2番の夕日のところを、グループのイメージのまとめとして書くことにしました。私たちがこの歌から連想したのは、「希望」です。このことをイメージして歌いたいと思います。歌を歌う時に気をつけることは、最初はゆっくりやさしく歌って、曲の山の～少年の日はいま～のところは、少し高くして歌いにくいけど、ちゃんと声が出せるように大きく歌うことです。「希望」という思いがみんなに伝わるように歌います。



<<2グループ>>

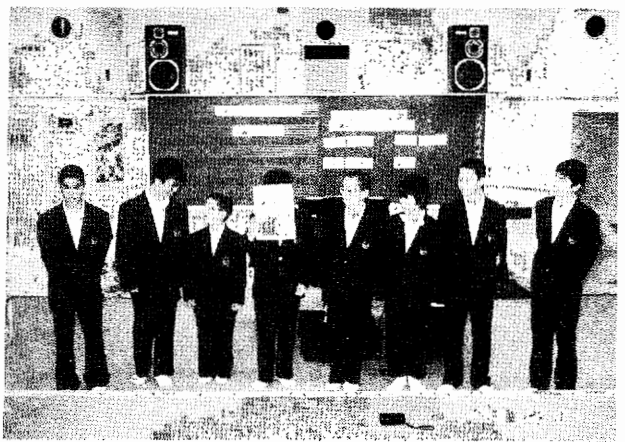
私たちは、この歌から青春時代を歩いていく少年の姿をイメージしました。そのイメージを膨らませて、みんなで3番の歌詞を作りました1番・2番でくりかえし使われている言葉は、そのまま使い他の部分を「青春」に合う言葉で埋めることから始めました。

1番は君は心に～2番は君の瞳は～で始まっているので、3番の出だしの言葉を何にするか、とても迷い、苦労しました。歌い方の工夫は、「さあ、～」を強調し、「少年の～」を特に強く歌います。そして「君だけのもの」をやさしく歌います。



<<3グループ>>

僕たち3グループは、歌のイメージを紙芝居にしました。1番と2番の歌詞から物語を作りそれから絵を書きました。僕たちが表したいことは、「夢」です。悩みの多い中学生が、広い青空や美しい夕日を見ながら自分の将来に夢をふくらませる、というストーリーです。歌は音程が難しいので、ちゃんと歌えるように気をつけます。出だしは少し弱く歌い、それからだんだん盛り上げて、後半は大きく歌いたいです。

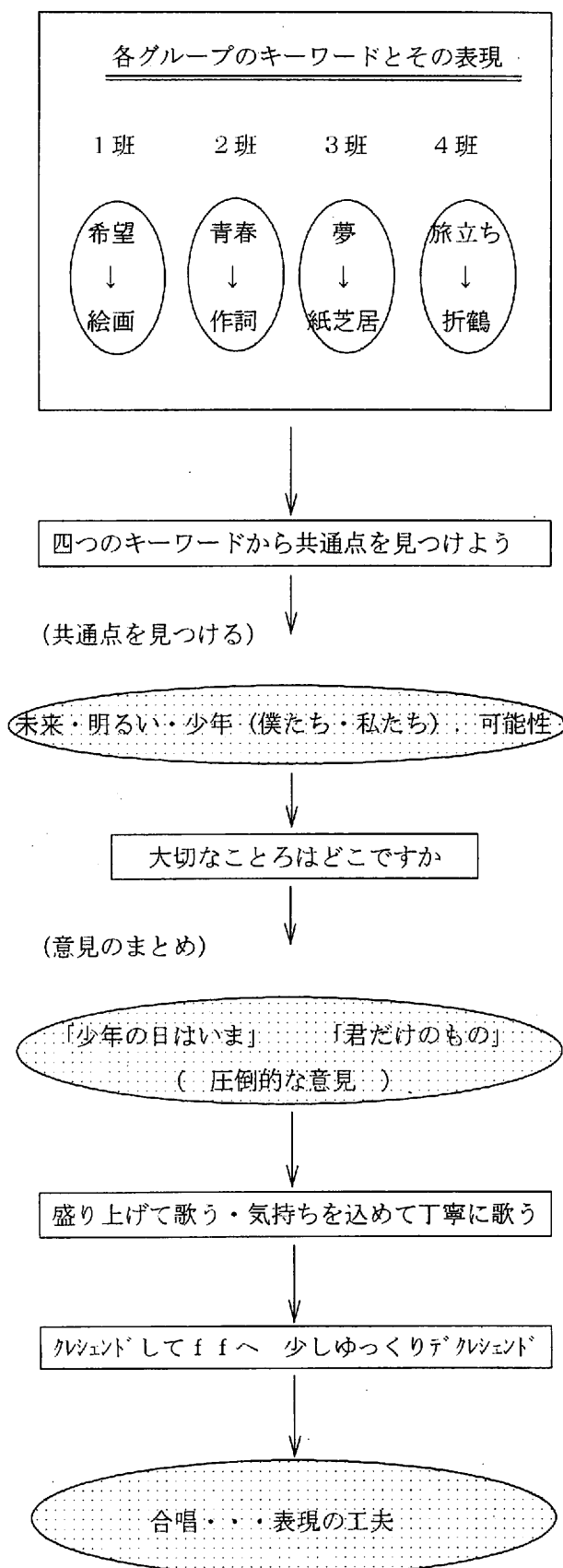


<<4グループ>>

僕たちは、この歌から「旅立ち」をイメージしました。みんなで話し合っ、イメージしたことを絵と言葉で表現することにしました。歌詞の中の「大きな翼もった 白い鳥」から、白い千羽鶴を折ることに決め、また、「地球をつつむ青空」は絵に書きました。地球の周りを白い鳥が飛ぶ様子で「旅立ち」をイメージしました。歌は、くりかえす所をだんだん大きくし、最後の「少年の日は～」が一番大きく歌います



<<授業の流れ>>



<<検証授業の反省会より>>

- 授業の流れでグループ活動の場面が少ない。
- 四つのキーワードは、どのようにして一つにまとめるのか。
- 指導案の流れが、きちんとポイントをおさえていて「表現の工夫」に結びつけられていた。
- イメージをふくらませる段階で、和声感・読譜指導をどのように絡めるか。
- 自己評価の質問項目がありきたりである。
- 相互評価がとても良い。
- 計画した授業時数が少ないのではないか。
- 表現することの難しさはあったが、楽しく取り組んでいた。
- 生徒の動きが良く真面目に取り組んでいた。
- 座席の工夫が良かった。

7 検証授業を終えて

- 授業計画の第三次「曲のイメージをふくらませ表現を工夫する」に重点を置き取り組んだ。
- 「イメージ作り」の導入である5時間目は、イメージと表現について理解させることに、予定より多くの時間を要した。
- 発表までの各グループの活動は、積極的で楽しい雰囲気を感じられた。このことは、自己評価や相互評価・生徒の感想からも知ることができた。
- 週2時間の授業では、時間的に厳しさはあるものの、生徒の表情からイメージを捉え、ふくらませる合唱表現の指導の大切さを感じた。
- 目標とする「生き生きと表現する合唱」としては、不十分であったが、精一杯歌っていた。
- 一人一人の生徒の「こんなふうに歌ってみたい」「この方が曲にあってる」等の関心や意欲の高まりを感じた。

## VI 研究の評価

### 1 イメージと表現に関する調査より

#### (1) ねらい

- ① 楽曲のイメージをふくらませることと、歌唱表現について、生徒の意識を調査し、指導改善のための資料にする。
- ② 事前・中間・事後の結果を比較し、その変容を確かめる。

#### (2) 調査対象

浦添市立浦西中学校 1年5組  
男子18人・女子18人 計36人

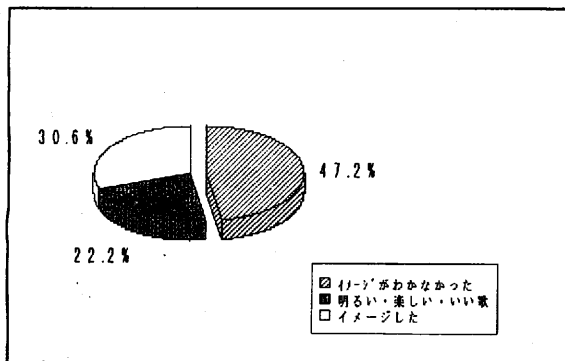
#### (3) 調査期日

- ① 事前：H10年12月 7日
- ② 中間：H10年12月18日
- ③ 事後：H10年12月24日

#### (4) 結果

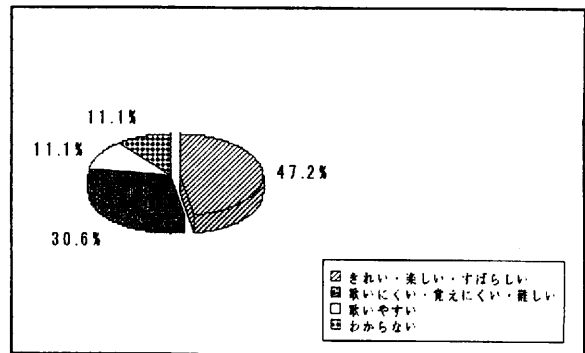
##### ① 事前アンケート

ア 初めて「少年の日はいま」を聴いたとき、  
どんなことを感じましたか。



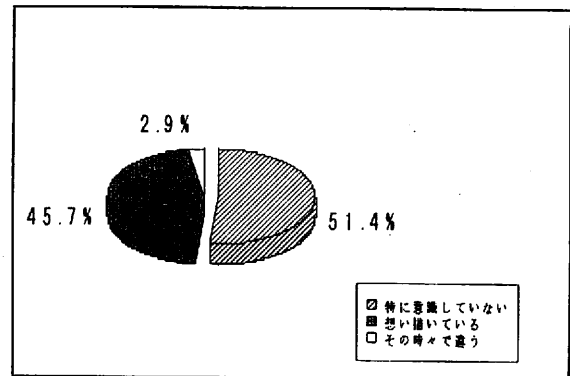
半数近くの生徒が、イメージの捉え方がわからないと答えている。また、感じたことでは、具体的なイメージではなく、「明るい・楽しい」等の答えが多い。

### イ 歌ってみて、どんなことを感じましたか。



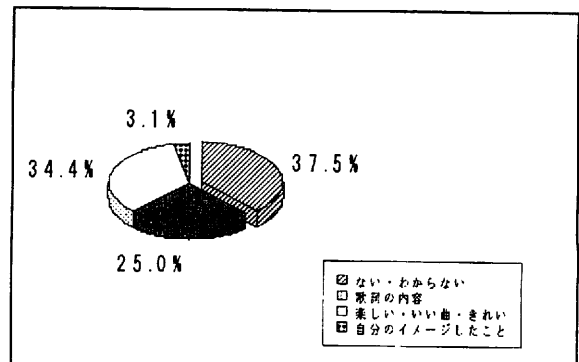
上記の結果から、雰囲気を感じた生徒が47.2%で、「歌いにくい」等の技能面での感じを答えた生徒が41.7%になっている。

### ウ イメージを広げて歌っていますか。



51.4%の生徒が「特に意識していない」と回答している。

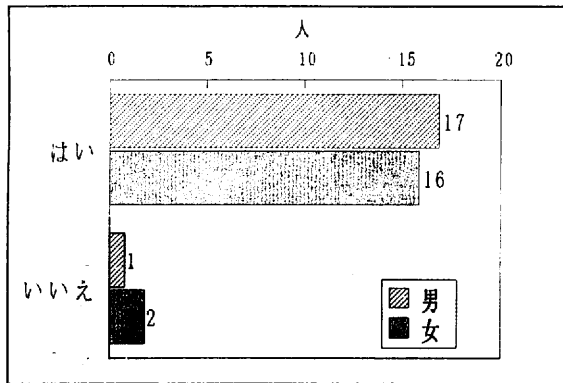
### エ 聴いている人に、どんなことを伝えたいですか。



この結果から、約3割の生徒が思いを表現することについて、捉えていないことがわかる。

② 中間アンケート

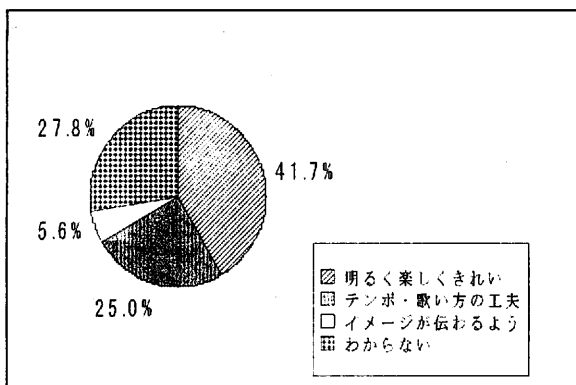
ア グループでの話し合いを通じて、曲のイメージが膨らみましたか。



<< 膨らんだイメージ >>

- ・旅立ち ・ 希望に燃えている様子
- ・少年が空を飛びながら遊んでいる様子
- ・青春 ・ 青春時代 ・ 少年がはばたいていく姿
- ・夕日 ・ 未来への希望 ・ 楽しそう ・ 強い感じ

イ 膨らんだイメージを、どのように表現したいですか。



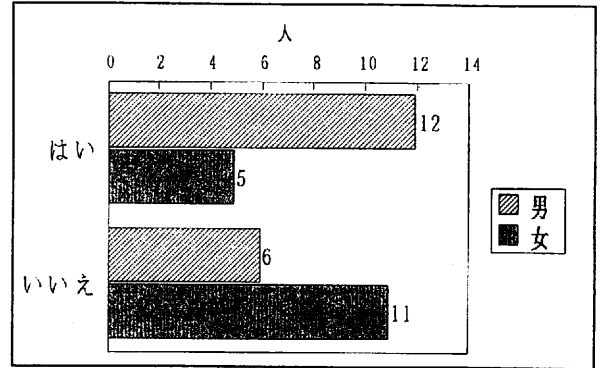
<<回答できた・・・26名>>

- ・明るく ・ 楽しく ・ きれいな声で
- ・テンポを工夫する ・ 歌い方を工夫する
- ・自分のイメージが伝わるように歌う

<<回答できない・・・10名>>

- ・わからない ・ まだつかめない

ウ あなたの思いは、聴く人にうまく伝わっていると思いますか。

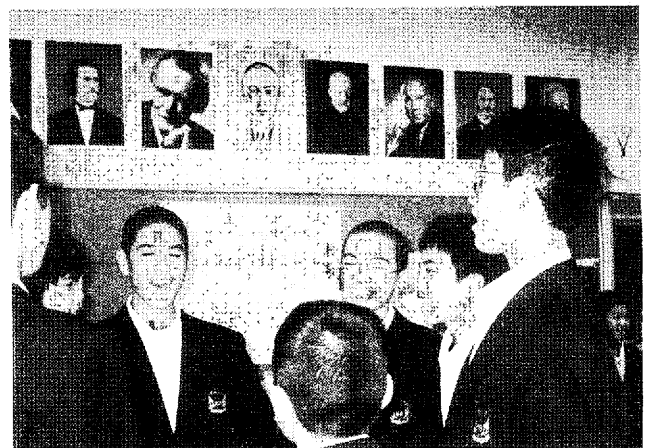


<< 「はい」 の理由 >>

- ・きれいに歌えた ・ 間違えずに歌えた
- ・ちゃんと歌えた ・ 頑張ったから
- ・真剣に歌った ・ 気持ちを込めて歌えた
- ・歌い方を工夫できた

<< 「いいえ」 の理由 >>

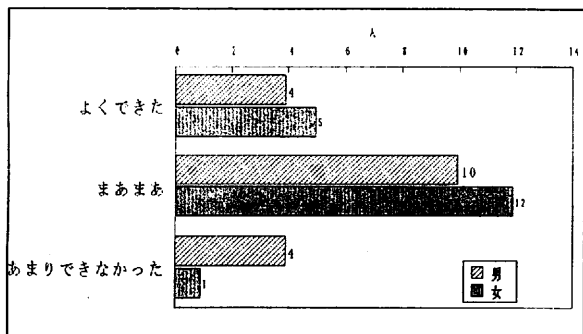
- ・大きな声で歌えなかった
- ・上手に歌えなかった
- ・声が出なかった
- ・伝えるものがない
- ・表現したい所がうまく歌えなかった
- ・感情を込めてなかった





③ 事後アンケート

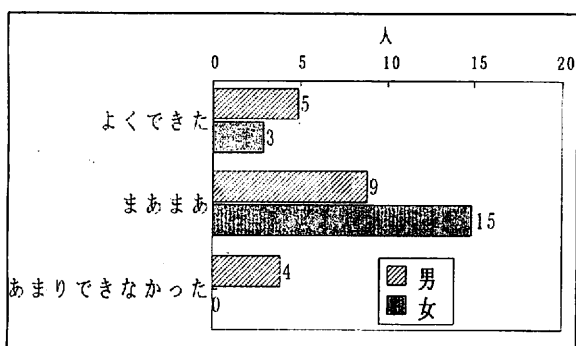
ア 自分の思いを込めて、歌うことができましたか。



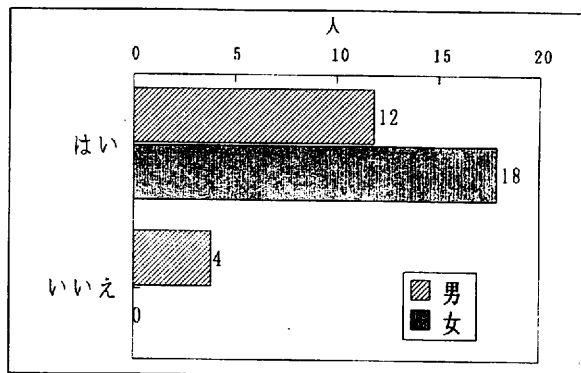
になった

- ・歌の雰囲気があった
- ・歌いながら、イメージが浮かんでくるようになった
- ・イメージすることができるようになった
- ・情景を思い浮かべるようになった
- ・感じたり、考えたりすることができるようになった
- ・歌っている人が、どんな気持ちであるか考えるようになった

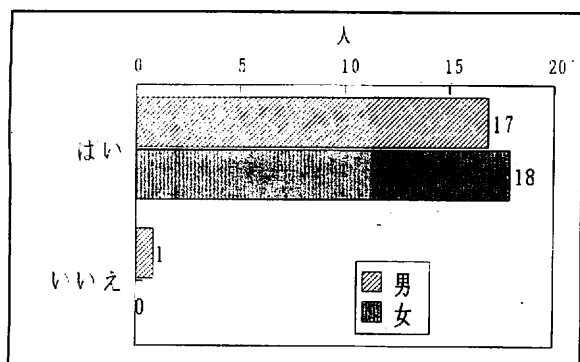
イ イメージしたことが表現できましたか。



エ 表現することが、わかるようになりましたか。



ウ グループ活動を通して、イメージすることがわかるようになりましたか。



<<「はい」と答えた理由>>

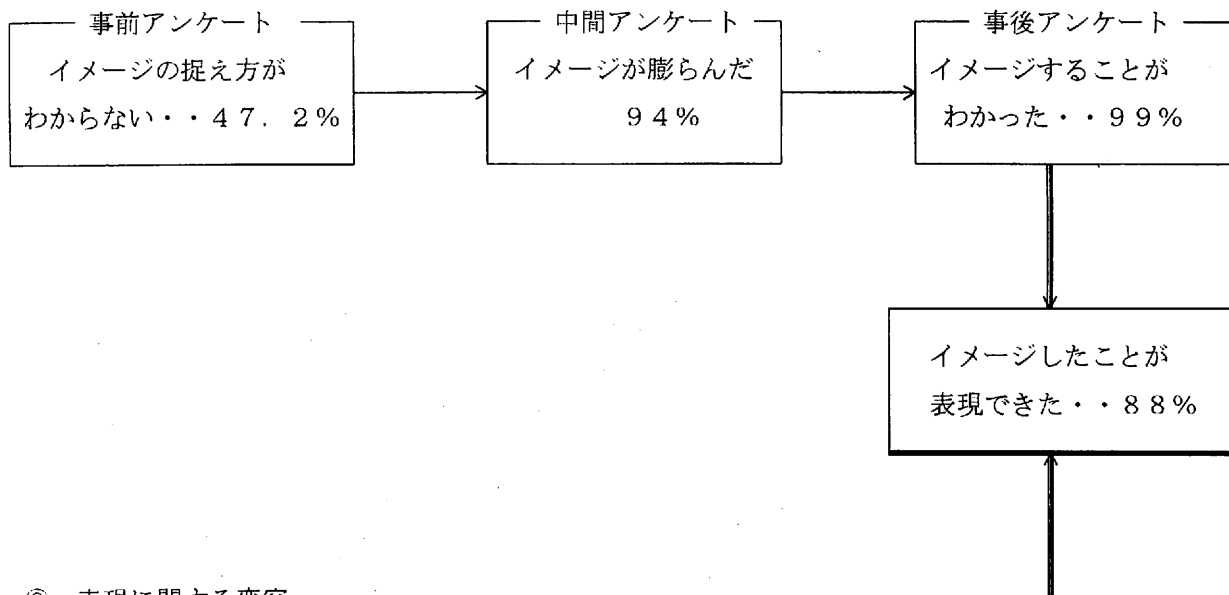
- ・イメージしたことを別の形で表現できるようになった
- ・歌い方で少し表現することができた
- ・歌い方の工夫ができるようになった
- ・大切なところがわかり、強弱をつけたりと工夫できたから
- ・自分の感じたことを歌にすることがわかった
- ・気持ちを込めて歌えるようになった
- ・歌の雰囲気を感じて、それを伝えるための歌い方の工夫ができた

<<「はい」と答えた理由>>

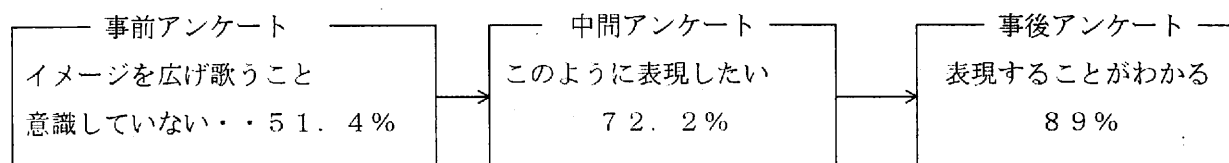
- ・自分がイメージしていたこと以外にも、いろいろなイメージが出て、もっとイメージがふくらんだ
- ・歌うとき歌詞の意味がわかるようになった
- ・強く歌ったり、弱く歌う所などがわかるよう

<分析と考察>

① イメージに関する変容



② 表現に関する変容



事前調査で、「イメージの捉え方がわからない」と回答した生徒がほぼ半数であったのが、合唱のまとめを終えて「イメージすることがわかった」と99%の生徒が答えている。生徒の表現には、まだまだ未熟さはあるが、イメージ作りを通して、生徒が課題にそった活動がしっかりできたこと、イメージすることや表現することへの理解が深まったと捉えたい。

上記の結果から、イメージすることや表現することがわかるようになり、イメージしたことが表現できるようになったことがうかがえる。

2 相互評価より・・・<発表で各グループの良いところを見つけよう>

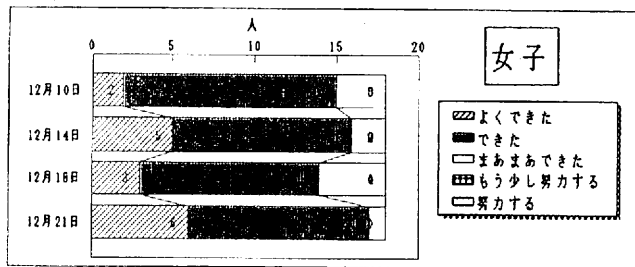
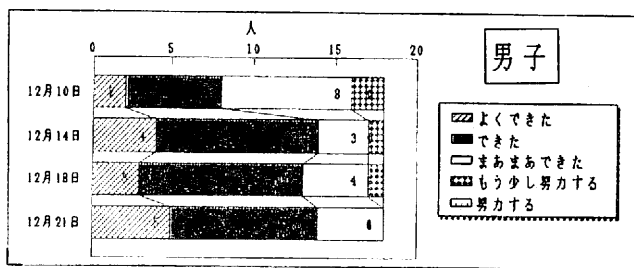
	歌と表現を聴いて感想を書いて下さい。 (そのイメージについてよく表現できていたか、イメージしたことが伝わったか等・・・)	発表の仕方について (工夫しているところや良いところ等)
1 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードの「希望」の感じが出ていた。</li> <li>・絵に希望というイメージが描けていた。</li> <li>・表現しようとしていることが伝わった。</li> <li>・絵の少年が白い鳥と一緒に空を飛んでいて楽しそうなイメージがわいてきた。</li> <li>・高音が出しずらそうだったが、頑張っているのがわかった</li> <li>・一番言いたいところを上手に絵で表現できていたと思う</li> <li>・盛り上げるところはちゃんと歌っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく声が出ていた。</li> <li>・みんなの歌がきれいに合っていた。</li> <li>・絵が上手で、きれいだった。</li> <li>・自分たちの伝えたいことがわかりやすく絵に描けていた。</li> <li>・工夫したところをちゃんと発表していた</li> <li>・丁寧で聞き取りやすかった。</li> </ul>
2 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3番の歌詞作りに挑戦したのが良かった。</li> <li>・未来に向かう少年のことを表していて、とても上手だと思った。</li> <li>・歌詞がイメージに合っていたと思う。</li> <li>・「青春」がイメージできた。</li> <li>・3番の歌詞が良くできていて、とてもきれいでした。</li> <li>・思いがこもっていた。</li> <li>・表現しようとする気持ちがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堂々と発表していた。</li> <li>・声が大きかった。</li> <li>・全員で取り組んでいたのが良かった。</li> <li>・ちゃんと歌っていた。</li> <li>・自分たちの言葉が入っていたので素晴らしい</li> <li>・役割がちゃんとできていた。</li> </ul>
3 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の絵がキーワードの夢と合っていた。</li> <li>・紙芝居にした発想がすごい。</li> <li>・絵はきれいだったけど、イメージしたことはあまり伝わらなかった。</li> <li>・歌のイメージをそのまま書いていて良かった。</li> <li>・少年の気持ちが伝わった。</li> <li>・絵も文も考えて偉いと思った。</li> <li>・歌は最後を大きく歌っていたので良かった。</li> <li>・気持ちを込めて歌っていたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の声が大きかった。</li> <li>・絵が上手だった。</li> <li>・工夫したことがわかった。</li> <li>・歌声は少し小さかった。</li> <li>・見ていて楽しかった。</li> <li>・がんばっていた。</li> <li>・ぐらぐらしてなかった。</li> <li>・発表者がひとりだったので、みんなで読んだ方がいいと思った。</li> </ul>
4 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな鶴を折ったことがとても良かった。</li> <li>・鶴が飛ぶことで「旅立ち」を表現したことがわかりやすく良かった。</li> <li>・歌は上手ではなかったが、イメージしたことは伝わった</li> <li>・地球の絵と鶴が良かった。</li> <li>・鶴を飛ばすというのがすごいアイデアだと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。</li> <li>・役割ができていた。</li> <li>・わかりやすくすばらしい。</li> <li>・絵がとてもきれいだった。</li> <li>・鶴をはばたかせたのが面白かった。</li> <li>・声が大きかった。</li> <li>・発表の時、立ち方が良かった。</li> </ul>

<分析と考察>

- 具体的表現は、各グループともイメージしたことが伝わる表現ができた。
- それぞれにキーワードにそった表現ができた。
- 表現を工夫する意欲が各グループのアイデアから感じられた。
- 表現しようという気持ちはわかったが、歌い方の工夫は、あまり伝わらなかった。
- 大きく歌うところは強調されていたが、その他の部分でもっと細かい歌い方の工夫ができてなかった。
- 音程・発音・発声等は、練習不足であった。
- 取り組みにおいて、積極的な態度が見受けられた。

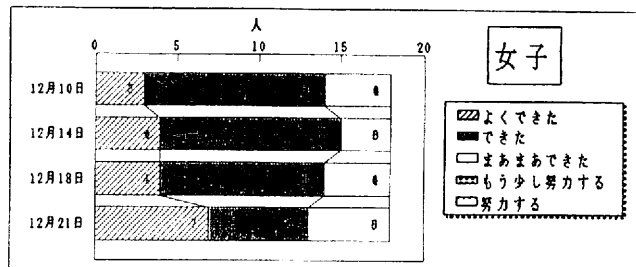
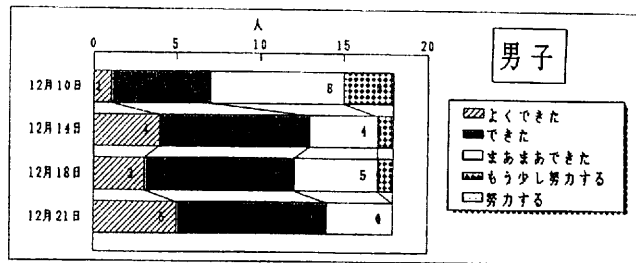
3 自己評価より・・・<合唱表現への意欲の推移>

(1) 大きな声で歌うことができましたか。



◎上記の結果から、徐々に意欲が出てきていることがわかる。

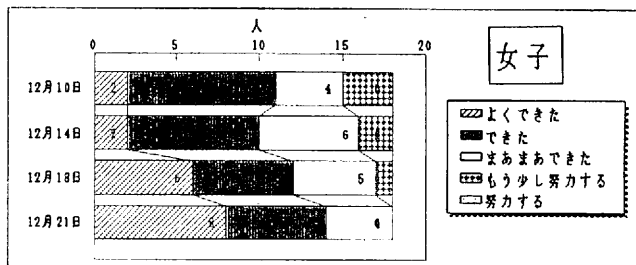
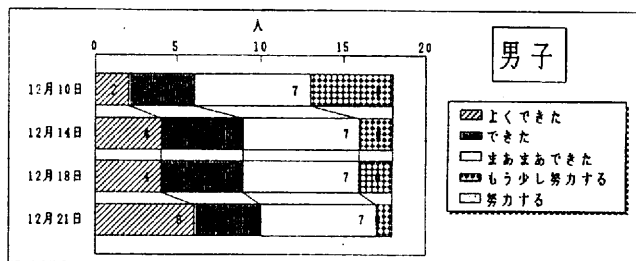
(2) 自分の声を感じながら歌えましたか。



◎男女とも、「よくできた」が増えている。

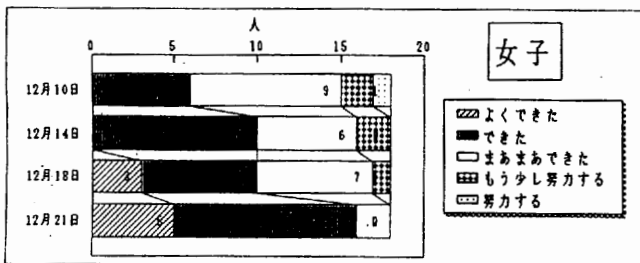
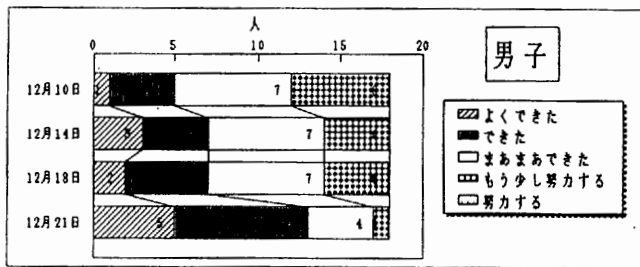
21日は、公開授業で緊張したため女子の「できた」が減っている。

(3) 他の声部を聴きながら歌えましたか。



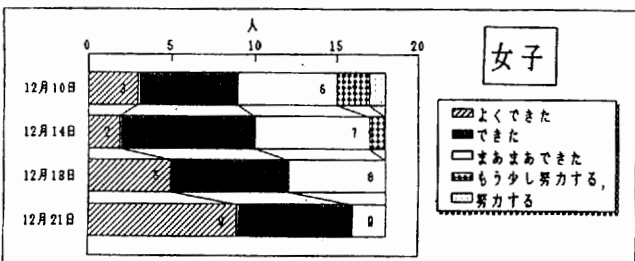
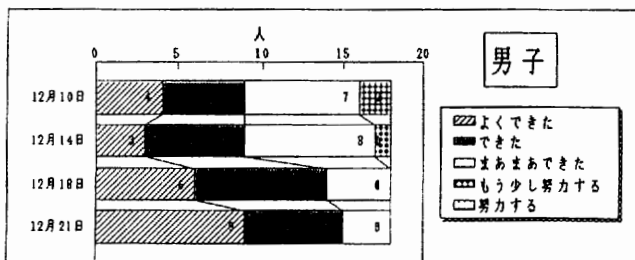
◎この結果から、練習を重ねるごとにハーモニーを感じて歌えるようになってきていることがわかる。

(4) 表現を工夫しながら歌うことができましたか。



◎男生徒は、「もう少し努力する」が減った。  
女生徒の大半が「よくできた」「できた」と答えている

(5) グループ活動に積極的に取り組みましたか



◎学習の目標を持ち活動した結果、男女とも取り組みに意欲が表れた。

<分析と考察>

- 各項とも授業が進むにつれ、「よくできた」「できた」と答えた生徒が増えた。
- 特に「大きな声で歌うこと」「自分の声を感ずること」「グループ活動への参加」の推移では、「もう少し努力する」「努力する」が0%で全員がよく取り組んだことが表れている。学習意欲の向上がうかがわれる。
- 「自分のパートを歌う」「他の声部を聴いて歌う」は、日を追うごとに上昇していて、この結果から和声感が育ってきていると考えられる。
- 学習の目的やその流れをよく理解し、意欲的に取り組んだと思われる。



#### 4 生徒の感想

◎私は、「イメージをふくらませる」ということについて、いろいろなことがわかったような気がします。それは、題名からイメージしたり歌詞やメロディーから感じたことをまとめ、イメージをふくらませるというような経験をしたからです。イメージをふくらませることで相手に気持ちが伝わることもわかりました。授業の中で、絵や紙芝居、歌詞などで表してみても、自分がイメージしたことが、相手に伝わるんだなと思いました。

◎私は、この授業からイメージを表現する大切さがわかりました。私たちのグループは、歌詞を作って表現しました。少年の日の「青春」をイメージして未来へ歩き出していく感じを表し歌いました。ただ何となく歌っていたときに比べ、イメージしながら歌うと、とても歌いやすかったです。これからは、ちゃんと歌のイメージを大切に、表現できる歌い方ができるようにしたいです。

◎私は、絵や文で表現することを通して、イメージをふくらませることが、大切だということに気づきました。今までは、何も考えずにただ歌っているだけだったけど、イメージをふくらませて、心を込めて歌うと聞いている人にもちゃんと伝わっていいと思いました。また、自分も思いっきり歌うことができ、すごく楽しい気分が歌うことができました。私は、この授業で歌の楽しさを学ぶことができました。これからは、イメージをふくらませ表現していきたいです。

◎この授業を受けて、本当に良かったと思います。なぜなら、一曲の歌で、どんどんイメージをふくらませることを知ったからです。またグループでいろいろなことを考えたり話し合ったりして、いままで以上にみんなと仲良くなれたし、ちゃんと最後には、自分たちのイメージしたことを伝えることができました。この歌のおもしろさや楽しさとか、いっぱい知ったことが、本当に良かったです。

◎わたしは、この授業でイメージの大切さを知りました。考えれば考えるほどイメージはふくらんでいき、友だちの意見や先生の言葉一つ一つがイメージとして、私の心の中でふくらみました。

最初は、イメージって何だろうとか、悩んだりもしたけど、わかるようになりました。とても楽しい授業ができました。

◎この授業を通して、私は、自分の歌に対して気持ちが変わりました。ただきれいに歌おうとしか考えなかったけど、授業を受けて、歌うときにその歌のイメージを持つこと、聞き手にそのイメージを伝えることが大切だということがわかりました。美しく歌うことも大切だけど、表現して伝えることも大切だということがわかりました。

◎僕たちは、最初、やる気がなかったみたいだけど、練習を続けているうちに、だんだんやる気になってきて、がんばりました。僕が難しかったのは、ト音記号とか長調とかの問題です。音符はもつとがんばらなくちゃ、と思いました。

発表の時、歌では緊張してしまって大きな声は出せなかったけど、音の大小、ハーモニーなどを気をつけました。僕は、授業でやる気がなくて、何にもできない、自分が気をつけて頑張らなくてはいけないと思いました。どんなに自分が下手でも、精一杯心を込めて伝えたいことを歌えば、かならず伝わると思いました。そして、歌は、自分のイメージをふくらませて聴かなければ楽しくないと思いました。

◎今まで、音楽の授業はただ歌詞を覚えて大きい声で歌っていればいいと思っていた。今度の授業では、イメージをふくらませ班に分かれて絵を描いてみた。そして、絵を頭に浮かべて歌った。そしたら、みんな大きな声できれいに歌っていた。私は、これが「イメージして歌う」なんだと思った。これまでと違ってとても楽しく歌えた。

## Ⅶ 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

「イメージしたことが伝わる表現をしよう」を目標に置き、研究を進め次のような成果を得た。

- (1) 生徒一人一人が、イメージすることや表現することに関心を持ち、意欲的に活動するようになった。
- (2) ふくらんだイメージをクラス全体で共有化し、自分たちの表現として生き生きとした合唱作りに取り組むことができた。
- (3) 学習の課題を認識して、見通しを持って取り組む生徒が増えた。
- (4) 生き生きとした表現力を育成するための指導方法について、研究を深めることができた。

### 2 今後の課題

今回の研究を通して、生徒が自分の思いを表現する活動に関心を持ち、意欲的に取り組むようになった。さらに次の三点について、今後の課題として研究を深めて行きたい。

- (1) 合唱指導における基礎・基本の充実
- (2) 和声感・読譜力を高めるための教材の精選
- (3) 情意面の評価の在り方

#### おわりに

この6ヶ月間、合唱指導の工夫について研究を進めてきました。研究を通して、本研究のテーマである「イメージしたことを表現する」ことの難しさを痛感するとともに、自らの研究紀要作成でも、表現することが如何に大変かを思い知らされました。日頃の勉強不足を反省するとともに、研究の大切さを再認識いたしました。このような意味でも、大変貴重で充実した時間を過ごさせていただいたと思います。

この有意義な研究の機会を与えて下さいました前浦西中学校長真栄田義勝先生、浦添市教育委員会及び関係機関の皆様、並びに、快く送り出してくださいました西平守祐校長先生をはじめ浦西中学校の先生方、同期研究員の諸先生方に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、懇切丁寧にご指導いただきました研究所の新城英将所長、池田博暁係長、當間正和指導主事、所員の皆様に心より感謝申し上げます。

#### 参考文献・引用文献

- |                     |                  |         |      |
|---------------------|------------------|---------|------|
| □ 西澤昭男              | 「音楽教育の原理と実際」     | 音楽之友社   | 1989 |
| □ 竹下英二              | 「音楽科グループ学習」      | 明治図書    | 1993 |
| □ 迫新市郎              | 創造性を高める「音楽教育」    | 玉川大学出版部 | 1990 |
| □ 西山英二他             | 「中学音楽の授業」        | あゆみ出版   | 1990 |
| □ 阿部仁志              | 「子どものための音楽科教育」   | 図書文化    | 1991 |
| □ 塩野勇記              | 改訂「中学校学習指導要領の展開」 | 明治図書    | 1989 |
| □ 「指導計画の作成と学習指導の工夫」 |                  | 文部省     | 1991 |

